

平成 30 年度第 3 回（一社）日本生物物理学会理事会議事次第

日時：平成 30 年 12 月 15 日（土）12:30～17:00

場所：大阪大学蛋白質研究所 6F リフレッシュルーム

東京大学工学部 3 号館 6 階大会議室 3（6B04 号室）ほか（TV 会議）

出席者：理事総数 17 名 出席理事 14 名（代表理事を含む）

代表理事（会長）	神取 秀樹	理事（副会長）	高田 彰二
理事	石島 秋彦	理事	須藤 雄気
理事	諏訪 牧子	理事	豊島 陽子
理事	中井 孝尚	理事	西坂 崇之
理事	林 重彦	理事	原田 慶恵
理事	坂内 博子	理事	光武 亜代理
理事	宮田 真人	理事	渡邊 宙志

監事総数 2 名 出席監事 1 名

監事 木寺 詔紀

オブザーバー：

邦文誌編集委員長	佐甲 靖志
欧文誌編集委員長	石渡 信一
ホームページ編集委員長	宮田 真人（理事と兼任）
平成 31 年度年会実行委員長	永井 健治

陪席者：

会長室	神瀬 麻里子
学会事務局	向井 牧子

議長：代表理事（会長） 神取 秀樹

議事録作成者：理事 坂内 博子

審議および報告事項

1. 2018 年度年会報告（須藤）：報 1
2. 2019 年度年会準備状況（永井）：報 2
3. 2020 年度年会準備状況（神取）：報 3
4. 年会における二国間シンポジウム（神取）：報 4
5. 出版委員会報告（宮田）：報 5
6. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高田）：報 6
7. 生物科学学会連合連絡会報告（原田）：報 7
8. 非会員シンポジストの年会参加費・懇親会費内規について（神取）：報 8
9. IUPAB・ABA 関連報告（西坂）：報 9

10. 啓蒙活動報告（中井・原田）：報 10

11. 地区報告（神取）

中国・四国：報 11-1

九州：報 11-2

その他

審議事項：

1. 2019・20 年邦文誌編集委員承認・次期会誌編集委員長選出（宮田）：議 1

2. 次期 BPPB 編集委員長選出（宮田）：議 2

3. 2019 年分野別専門委員の承認（神取）：議 3

4. 分子科学研究所学会等連絡会議構成員の推薦（神取）：議 4

5. 2019 年度事業計画（案）（神取）：議 5

6. 国際関係議題（神取）：議 6

7. 2019 年度予算（原案）（諏訪）：議 7

8. 2019・20 年度理事候補の追加推薦について（原田）：議 8

9. 出版委員会関連議題（宮田）：議 9

10. 男女共同参画・若手支援関連議題（高田）

11. 宮崎年会参加費値上げの周知について（光武）：議 11

12. 年会中止の際の対応について（光武）：議 12

その他

審議および報告事項

定足数の確認：

理事会の審議に先立ち、議長 神取 秀樹 氏より、定足数のご報告があった。

理事総数 17 名のうち出席者 14 名により過半数を超えた。

定款第三十二条（決議）

理事会の決議は、決議について特別な利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

報告事項：

1. 2018 年度年会報告（須藤）：報 1

沈 建仁 実行委員長の代理として須藤 雄気 氏が 2018 年度の年会準状況を報告した。

開催概要の報告として、収支の報告があった。収支差額は 2,088,703 円の黒字であった。

最後に、理事全員から、実行委員会への感謝の意が表せられた。

2. 2019 年度年会準備状況（永井）：報 2

2019 年度年会の準備状況について永井 健治 氏より報告があった。

- 1) HP を開設し、12 月初旬にオープンした。
- 2) 新たな実行委員について報告があった。
- 3) 広告展示について。ランチョンセミナーをバイオフィジックスセミナーに名称変更した。
- 4) 懇親会時に展示特別ブースを設け、スクリーン広告を導入することを決定した。
- 5) 21 のバイオフィジックスセミナー（ランチョンセミナー）枠を設けており、現在 19 社が内定している。
- 6) 年会ウェブサイトは、スマートフォン版も作ることに決定した。
- 7) 年会アプリの作成をすることにした。例年より早い段階での稼働を目指す。
- 8) 大会長企画：カレントトピックセッション（休憩場も兼ねて）分野別専門委員から、「カレントトピックセッション推薦委員」を決めて、演者が決まった。カレントトピックセッションでの発表は、通常の演題と同様、重複とカウントするため、カレントトピックの講演者はシンポジウムでは発表できない。
 - 発表者について理事から質問があった。全員生物物理学会員とのこと。二国間シンポジウムは、台湾とオーストラリアである。
- 9) シンポジウムの公募を始めた。本シンポジウムの特徴は、予定講演者にくわえて、一般演題から 2 件以上のピックアップしてもらうことである。公募採用以降に、一般演題からオーガナイザーにピックアップしてもらう予定。
- 10) 12 月 19 日に、現地実行委員との打ち合わせを行う。現地の企画 AGC コーポレーションに看板作成などを依頼することになっているので、これについても確認する。当日の学生アルバイトが、現地運営委員の学生で足りるか？追加のアルバイト募集を行うかを検討する。懇親会で、ご挨拶してくれる宮崎県の人を確認する。
- 11) 高校出前講座について。市民講座を行わないかわりに高校出前講座を行う。11 月 17 日、宮崎西高校に 2 名が出張講演を行い、好評を得た。市民講座よりも、効率良く、多くの人に科学の楽しさを知っていただける方法だと考える。次回の開催についても、校長から、全校生徒を集めた小講演を打診されている。
 - 出張旅費に関して、理事から質問があった。現段階では所属機関から旅費が支出されているとのことである。
- 12) 協賛企業募集について
様々な形態の協賛を募集するのが、本大会の工夫である。「協賛シンポジウムプレゼンテーション」は、関連するトピックの冒頭に 5 分間宣伝できるタイプ（5 万円）。

すでに申し込み企業あり。セット割引も設定している。申し込みも増えている印象。外資メーカー対策で、英語バージョンを作った。実際に、外資系企業からの協賛を得ている。従来、年会は英語で行っており、海外協賛企業があるにも関わらず、これまで英語の開催案内がなかった。今後も踏襲を期待する。

- 理事からは、シンポジウムスピーカーの一般講演からのピックアップについて、学生賞応募者の扱いについて質問があった。また、ランチョンセミナーの名称変更、託児所、宿泊、科研費説明会について、理事から質問があった。

3. 2020 年度年会準備状況（諏訪）：報 3

2020 年度年会の準備状況について諏訪 牧子 氏より報告があった。

- 1) 準備委員会立ち上げ準備会合を行い、年会についてロードマップを書いた。会場は建築中だが、無事に完成する見込みを確認済み。
- 2) 第一回準備委員会は、1月26日（土）に群馬会場（建設現場）で行う。
- 3) 広い会場である。ポスターは全部が入る。混み合うことはない。
- 4) 企業展示は、ポスター会場に隣接。
- 5) 3日間張り替えることのない展示の仕方にする。
- 6) 懇親会会場「高崎メトロポリタン」は600名規模で581名（岡山年会）の実績からすると、少し狭いため、コンベンションセンターにある展示ホール（ポスター会場に隣接）で懇親会を行う。
- 7) 企業展示については、宮崎年会を踏襲していきたい。
実行委員会名簿案については、群馬・前橋近辺に加えて、東京、南関東などから選んでいる。

4. 年会における二国間シンポジウム（神取）：報 4

年会における二国間シンポジウムについて神取 秀樹 氏より報告があった。

- 1) アジアの5つの国と、BSJとしてオーソライズした二国間シンポジウムを行なっている。岡山年会の二国間シンポジウム：中国、韓国（東アジア）のオーガナイザーに、二国間シンポジウム開催に関する調査を行い、意見を求めた。下記の意見がだされた。
 - 大変負担が大きかった。個人的に食事等に連れていったとも聞く。
 - 韓国に行くと、たいへんな歓待を受け、断るのも難しい。一方日本では、接待のためのお金は公費から出しにくい。
 - シンポジウム自体は、シンポジストたちは良かったと言ってくれた。二国間シンポジウムのオーディエンスが少ないのは残念である。もう少し人を増やすような工夫があればと思う。
 - 二国間シンポジウムは個人的なつながりで維持されているが、生物物理学会としても積極的に関係を築くべきである。
 - オーガナイザーを務めると、演題登録、宿泊先の手配など、様々の負担が生じる。今後は、前例が積み重ねられた段階で、システムチックにできるようになればよい。
 - 中国は、ビザ取得のため、学会長からの招聘状が必要。このようなノウハウの蓄積が必要。「相手国のオーガナイザーだが、日本生物物理学会の会員」などの扱いをどうするか、今後はシステム作りが必要。

- 理事会では、二国間シンポジウムをルールに沿ってうまく運用するために、継続して審議を続けることで合意した。

- 誰が、何人来て、どこに宿泊するかなど、情報の食い違いが関係者の間であった。一本化の方が次回はスムーズという意見が出た。
- 2019年にインド生物物理学会で、二国間シンポジウムを開催する。若手奨励賞受賞者3名が登壇する。

5. 出版委員会報告（宮田）：報5

- ・ 会誌編集委員会議題
- ・ HP 編集委員会議題

宮田 真人 氏より出版委員会の報告があった

- 邦文誌に関して
会誌の内規等について、メールで意見を募る。
- 欧文誌に関して
石渡氏より、欧文誌について現状の報告があった。科研費を Vol.15 制作費（編集経費）に使用する。さらに、Clarivate 社によるダイレクトメール（BPPB 誌に掲載された論文に引用された論文の責任著者に、BPPB に引用された旨を知らせるメールを送る。500 通分）に使用するとの方針である。

6. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高田）：報6

高田 彰二 氏より男女共同参画・若手支援委員会の報告があった。

- 1) 岡山年会の男女若手関連について報告・引き継ぎ。
 - ◆ キャリア支援説明会は大変好評だった。宮崎年会でも同じ業者にコンタクトする予定である。
 - ◆ 岡山年会キャリア支援説明会から出た改良すべき点が報告された。
 - ◆ 個別相談会は、ウェブ申し込みで、9 スロットあるうち7 スロット埋まった。ニーズがある。35 歳以上任期つきの方など相談できて良かったとのこと。基本的には好評ということで、もう一年よく似たかたちで進めたい。
 - ◆ ランチョンは2日に分けて半分ずつはどうかという案もある。
 - ◆ 若手でも、学生とポスドクでは異なる。今回は同じような内容を繰り返して行ったが、内容を分けることも考えられる。
- 2) 宮崎年会のシンポジウムは、まだ決まっていない。
- 3) 男女共同参画学協会連絡会について。
 声明文と要望書について、学会としては前向き。締め切りは次の理事会の前にあるので、問題があると思われる点（言葉の選び方、内容）があれば、メールにて審議を行う。

7. 生物科学学会連合連絡会報告（原田）：報7

原田 慶恵 氏より生物科学学会連合連絡会の報告があった。

- ◆ 生物科学学会連合に参加するそれぞれの学会について、紹介を行なった。
- ◆ 2020年生物学オリンピック（長崎）の開催が承認された。共催するために、3億円の寄付集めが必要である。
- ◆ 生物学用語の改定について、各学会から意見を集められている。（12月末締切）。
- ◆ 一般社団法人国立おきなわ自然史博物館準備委員会の設立が報告。
- ◆ 次期生科連代表選挙が行われた。小林武彦氏が選ばれた経緯の報告があった。

8. 非会員シンポジストの年会参加費・懇親会費内規について（神取）：報 8

神取氏より非会員シンポジストの年会参加費・懇親会費内規についてのメール審議の経過報告があった。（審議事項で議論）

9. IUPAB・ABA 関連報告（西坂）：報 9

西坂 崇之 氏より国際関連に関する報告があった。

- ◆ 12月2日～6日にオーストラリアで開催された ABA の報告。ABA 228 名 オーストラリア多い、44 人日本、中国 15 人。日本のプレゼンスが高かったとの報告があった。
- ◆ ABA 理事会について、出席された野地氏と由良氏による報告が紹介された。現 Chair である中国が実質的に活動しておらず、実際はオーストラリアの生物物理学会のメンバーにより ABA が運営されていた。
- ◆ 若手旅費支援として、日本生物物理学会から、9 名に各 5 万円の旅費の補助を行なった。（10 名の予定だったが、1 名キャンセル）
- ◆ ABA で印象的だったこととして、参加者のジェンダー比が全部公開されていたことが挙げられる。女性チェア 43%、女性の招待講演者は 52%。実際に女性が活躍されている印象だった。
 - 理事から、2024 年に、日本が ABA を担当する可能性はあるのかについて質問があった。次回は台湾開催であり、ローテーションからいくとその次（2024 年）は日本。2023 年は IBC があるため、負担が重なるという懸念がある。対応するグループが違えば IBC と ABA と時期が重なっても対応可能であること、また、交渉してその次の国と交代してもらおう等の方法も考えられるとの議論が行われた。
- ◆ IBC2023 の working group について。
 - WG は理事会が承認している。
 - 実行委員会は 6～7 名が上限。

10. 啓蒙活動報告（中井・原田）：報 10

中井 孝尚 氏より啓蒙活動報告の報告があった。

- ◆ 今年は 5 件終了、年度としては 6 件の活動
- ◆ 活動状況を HP に開示していきたい。
- 理事からは、「啓蒙」はよくないので、「啓発」に変えるべきとの意見が出された。HP や理事の名前も、啓発に統一すると再確認した。HP 担当から、派遣事業に関して Facebook のページ作成の意向も示された。

11. 地区報告（神取）

- ◆ 中国・四国：報 11-1
2017 年度中国四国支部の会計決算書の報告があった。
- ◆ 九州：報 11-2

支部役員と、活動報告について報告があった。

その他

一家に1枚ポスターのHPのリンクについて、講師派遣のチラシについて、クリアファイルについて、報告と確認が行われた。

審議事項：

1. 2019・20年邦文誌編集委員承認・次期会誌編集委員長選出（宮田）：議1

次期会誌編集委員長候補3名（順位をつけて推薦）、会誌編集委員候補5名を審議により決定した。

◆ 次期会誌編集委員長

現編集委員からの意見、理事からの質問に続き、出席理事（14票）が挙手で投票を行い、候補（順位をつけて3名）を決定した。

<結論>

理事会で投票を行った結果、豊島陽子氏（東大）→伊藤悦朗氏（早稲田大）→高橋聡氏（東北大）の順位付けがされ、出版委員長がこの順に交渉して次期会誌編集委員長を決定する。

◆ 2019・2020 会誌編集委員

出版委員会による投票結果に基づき、編集委員候補者5名について、理事会として承認するかどうかを審議した。審議ののち、出席理事（14票）が挙手で投票を行い、候補（5名）を決定した。

<結論>

次期理事候補は、編集委員候補から外すこととした。しかし、候補者4名では業務に支障が出るため、次点同票6位の中からもう一名の候補の選出を行った。

挙手投票の結果、編集委員として、

井上圭一氏（東大物性研／光生物学）

今田勝巳氏（大阪大学／生化学）

岩橋（小林）千草氏（理研／分子シミュレーション）

豊田正嗣氏（埼玉大学／イメージング、イオンチャネル、電気生理学）

松岡里実氏（理研／細胞生物学、蛍光イメージング）

の5名および、

次点・藤間祥子氏（奈良先端大／構造生物学）

が選出された。

2. 次期 BPPB 編集委員長選出（宮田）：議2

現編集委員からの意見、理事からの質問に続き、出席理事（14票）が挙手で投票を行い、候補（順位をつけて3名）を決定した。

<結論>

理事会で投票を行った結果、中村春木氏（遺伝研）→片岡幹雄氏（中性子科学センター）→伊藤悦朗氏（早稲田大）の順位付けがされ、出版委員長がこの順に交渉して次期 BPPB 編集委員長を決定する。

3. 2019 年分野別専門委員の承認（神取）：議3

審議ののち、分野別委員の承認を行った。

<審議>

新しい分野が提案されたが、今回は新しい分野をすぐに採用するのは難しい、分野別委員の得票数もデータとしてあるといいとの意見が理事から出された。

<結論>

今回は分野の見直しは行わず、既存の分野について案どおり分野別委員を承認した。来年以降、分野別委員の得票数も理事会に提出すること、審議をスピーディに行うことを合意した。

4. 分子科学研究所学会等連絡会議構成員の推薦（神取）：議 4

神取氏から、分子科学研究所学会等連絡会議構成員の業務と経緯の説明があった。

現任の杉田氏に推薦を依頼したところ、林重彦氏を推薦していただき、すでに内諾があった。

原案として、林重彦氏を推薦したい。

<結論>

生物物理学会として、林重彦氏を推薦することに決定した。

5. 2019 年度事業計画（案）（神取）：議 5

- 2019 事業内容。予算とも関係する。
- それぞれの理事の立場で、6月の社員総会で決定するまでのあいだ、2月、4月と審議をしていくことになる。
- 普及「啓蒙」活動を「啓発」に変える。
- 宮崎年会の市民講演会はしない、など個別の対応が必要。
- 20th IBC リオデジャネイロは、イグアスに変更になったため、変更する。
- 引き続き審議を続けていく。

6. 国際関係議題（神取）：議 6

2019年6月の社員総会に向けて、これから審議をしていく内容である。生物物理学会国際関係委員会（仮称）を新設する案が提出された。年会同様、実行委員と理事会が直に繋がる案と、その間に国際関係委員会があるといいとの意見がある。

<審議>

理事からは、以下の意見が出た。

- 2020年までに設置。極めて重要な「二国間」の位置付けが現段階で白紙。予算をどうするか、誰がどの責任でやるか（これまでは個人の技量まかせ）をはっきりし、組織として継続していくことが重要。
- 準備のための確固たる組織を作る必要がある。2023年に向けて、特別予算として（特別な事業として）、ある程度の額を確保すべきである。

その後、各理事が、組織、お金の使い方（旅費、飲食）について、意見を述べた。

組織について

- 新設の委員会には、理事は入るのか？との質問が出された。理事+外部のメンバーを想定している。理事の負担が多すぎるとも想像される。その場合は、理事の増員も考える。

旅費について

- 委員は、ブラジル・イグアスに行かなければならないと思うが、旅費を出してもらえるのか？ブラジルは遠いので、全額負担となるとかなり高額になるとの意見が理事から出された。学会としてのサポートは当然だと考えるが、実際の運用についてはこれから考える。

飲食について

- 理事は、飲食費も個人の負担をなくし、学会から支出することには賛成であった。そのために、学会員にきちんと説明し納得してもらうこと、予算枠を確保すること、拡大解釈されないように、特例とせず、ルール化するべきとの意見が出された。

7. 2019年度予算（原案）（諏訪）：議7

これから来年6月に向けて予算を固めていくための原案が提出された。2月の理事会に向けて、それぞれの理事の立場で、必要な費目を考えることが確認された。

8. 2019・20年度理事候補の追加推薦について（原田）：議8

企業の方に理事に加わってもらって、企業の方の目線が必要でないかということになった。2019-2020年度の理事候補として、企業出身の方を探していた。非会員であるが、オリンパスの小島清嗣氏を理事候補として推薦したい。長年他学会で理事を務めており、学会の運営にも非常に慣れているということで、お願いすることにした。

審議の結果、学会のルールに則って小嶋氏が理事になることに問題がないと判断されたため、小島清嗣氏の追加推薦を、本理事会として承認した。

9. 出版委員会関連議題（宮田）：議9

学会のウェブサイトのリニューアルに伴い、20年ほど前に作られた「生物物理学について」の変更方針に関して、審議を行った。理事および分野別専門委員に連絡を送り、研究の話も含めて「生物物理について」の内容について意見を集めることで合意した。

10. 男女共同参画・若手支援関連議題（高田）

審議なし。

11. 宮崎年会参加費値上げの周知について（光武）：議11

宮崎年会の年会参加費改定を学会員に周知する方法について、審議が行われた。今回は一般会員の参加費が3,000円上がり、学生会員の参加費が1,500円下がる。この経緯について、会員に説明したほうが良いのではと判断された。学会誌に値上げの説明を記載したPDFのURLを掲示するとの原案が出された。理事会では、原案に加え、この増額を継続するかどうか、学生会員の値段は継続するのか、などについて審議を行った。

理事および宮崎年会実行委員長から以下の意見が出された。

- 値上げだけではなく、学生会員の額は値下げしている。「値上げ」ではなく、「変更」である。会員数は減少しているので、学生会員を増やすきっかけとしたい。
- 学生会員値下げの文言を入れるべきである。宮崎年会では、旅費の負担が難しい方にはサポートすることを考えている。ABA5万円、のようなことを若手に対して行いたい。そのことも文言に盛り込みたい。
- 値上げは継続するべき。細胞生物学会は継続してこの値段なので、生物物理学会でも継続するべき。参加費の変更によって150万の増収見込み。
- 次の学会誌（1号）を出す2月はじめに周知したい。
- 年会の参加費なのでそれまでに決まればいいのではないか？ここで決められないのでは。学生2,000円がずっと続くのか？
- 群馬大会の実行委員会ではまだ検討していない。会員数減少は食い止めたいと思う。
- 群馬以降にしほりかけるような周知は避けた方がいい。
- 参加費は全体の会員に及ぼす話。周知に関しては、議論を続けてきたのだから、堂々と出すべきである。
- 年会実行委員会は収支に関して責任を持つ必要があるから、そこまで縛るのはどうなのかと思う。
- 筋論として、これから立ち上げる委員会の群馬年会でも話を聞いて、もしそれでOKなら、学会としてメッセージを出すべきである。ただ、今は年会実行委員会の立場からは発言できない。委員会をこれから立ち上げるので、そこで相談したい。
- 宮崎年会全員の意見ではないが、年会は学会のメインのイベントだと思う。今回の案件は、学会で周知したほうが良いと個人的には思う。群馬年会の委員会は組まれたばかり。今後の年会のことを含めるのは難しいことは理解できる。

<結論>

学会として、しっかり周知すべきであるという議論になっている。これからメール審議を行う。庶務担当理事、年会担当理事、宮崎年会大会長で原案を練り、文言は宮崎・群馬年会担当者で確認し、理事会で承認する手続きをとる方針で決まった。

12. 年会中止の際の対応について（光武）：議12

年会中止の際の対応を、理事会で審議を行った。

理事からは、中止を決定するプロセスについて、キャンセル料と返金について、議論が行われた。

<結論>

中止した学会の情報を集めて共有し、今後継続して審議を行う。

その他
特になし。

連絡事項：

1. 次回理事会日程について（神取）
平成30年度第4回理事会
日時：平成31年2月16日

場所：(TV 会議)

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 17:00 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 30 年 12 月 15 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 30 年度第 3 回理事会

代表理事 神 取 秀 樹

監事 木 寺 詔 紀